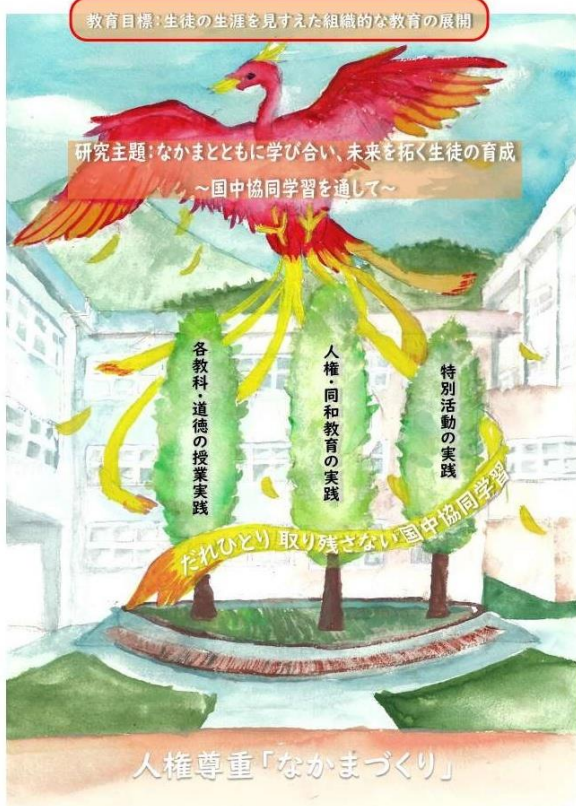


1. 研究主題

なかまとともに学び合い、未来を拓く生徒の育成 ～国中協同学習を通して～

2. 研究の具体



○国中協同学習の実践

【協働的な学びの実践】

学び合う土壌づくりのために、男女のペア活動や3～4人班での班活動を積極的に取り入れている。



【個別最適な学びの実践】

ジャンプ課題の場面では、生徒が自由に資料を見に行ったり、実験をしたり、友だちに聞きに行ったりと、自分に必要な学び方を選択できる場を設けた。



○研究推進4部会による研究推進

全教員が道徳部会、なかまづくり部会、人権・同和教育部会、ICT推進部会に分かれて研究と実践を行った。なかまづくり部会では、各学年でめざすなかま像を意識し、自治的な集団づくりのために学級会を行った。

| 各学年で育みたいなかま像 |                                     |
|--------------|-------------------------------------|
| 1年           | 互いを認め合い、自分の思いや考えを安心して、伝え合うことができるなかま |
| 2年           | 主体的に意見を出し合い、互いに高め合うことができるなかま        |
| 3年           | 課題を認識し、向き合い、未来に向けてともに歩むことができるなかま    |



○生徒の見取りと同僚性を高める教職員研修

公開授業では、参観者は生徒の学びの見取りを行う。参観後の授業協議では、生徒の学びの姿から、授業の振り返りをする。ローテーション道徳や人権学習はもちろん日常の授業参観を積極的に行い、国中協同学習観察シートを使った見取りを行った。

3. 研究の検証と改善の手立て

令和3年度と令和6年度に実施した生徒アンケートと、令和5年度香川県学習状況調査質問紙の比較から、安心して自分の意見を言える雰囲気づくり、楽しいと思える学校づくりにおいて効果が見られた。教員アンケートからは、日常の授業ではジャンプ課題が設定できていない現状が見られたため、来年度はジャンプ課題について研究を深めていきたい。

